【資料１】

第2回　名古屋市次期総合計画有識者懇談会（平成25年11月19日開催）の主な意見について

【計画構成について】

○おそらく具体的に施策を立てていく上では、45の施策体系に分けて立てていく形になるだろうが、施策と施策がバラバラにならずに、どうこのひとつひとつの施策が関連しているのかということまでイメージして、施策を立てていけると良い。

○地域の福祉を検討する時にも災害が関わるが、例えば、要援護者をどうするかという時に、地域防災計画との整合性がどうなるかといった、全体の計画と個々の計画との整合をどう図っていくのか。具体的な施策もそれぞれの局でやっていくのでは、南海トラフ巨大地震が来てすごく大変だという割には、インパクトがない。防災局を作って、これは南海トラフの対応局にしていくべきではないか。

○資料1の3ページに団塊の世代が後期高齢者になるとあるが、後期高齢者は75歳以上であり、団塊の世代は一般的には昭和22年から昭和24年生まれなので、団塊の世代が後期高齢者に突入するということでいうと平成34年からで、突入し終えるということでいうと平成36年なのではないか。

○この計画の構成が初めて見た人には分かりにくいのではないか。重点課題、重点戦略がどう位置づけられるのか。4つの都市像にぶら下がる施策体系と、それとは別に重点課題から導出される戦略、具体策というような、場合によっては二つの別体系から成っているというのも全然おかしくない。

○成果主義的な行政改革の下では、成果指標を載せることが想定できるが、どうしても載せられる指標は、近いうちに達成するものばかりになってしまい、本来の目標が矮小化されてしまう危険がある。最終的には、この総合計画全体としてのストーリーに沿ってるのかどうかといった視点で評価すればある程度十分なのではないか。

【福祉・教育について】

○ひきこもりやニートの人をどうサポートしていくかという時には、医療、子育て、虐待、就労などがひとつの個人や家庭の中に複雑に絡み合っているので、この施策の1から14まで全部関わってくる。縦割りの壁を乗り越えることを市も考えているようだが、NPOも専門性が高くなればなるほど、NPOの中に縦割りが生じている課題がある。

○強い名古屋を作っていく時に、福祉の対象になりがちな高齢者や障害を持った人たちを名古屋の力になるような施策を作っていただきたい。そういった人たちが求めているのは、いかに自分らしくできる仕事に就けるかというところで、一人ひとりが自分らしさを発揮できるような産業を作っていただきたいと思う。

○重点戦略のひとつ目である子育て世代に選ばれるまちをつくるという言葉は良いキャッチフレーズであるが、やはり基本的には親の都合、親の仕事の都合で住んでおり、子育て環境を考慮して住むまちを決めるというのは、今このような経済状況、環境の中で、それほど選択肢はないだろう。

○子育てしている人たちが、どういう不満を持ちつつもこの名古屋に住み続けているのか、どういうところが変わるとより安心して地元の公立学校にも行かせられるのかといったところをよくリサーチしてほしい。

○名古屋の教育の目玉のようなものが、中間案に必ずしも明確に反映されていないので、施策体系の具体化で、名古屋の子どもはこんなことをやるのだ、全国的に見ても面白い取り組みだと言えるようなものが出せると良い。
○施策の中で、子どもや地域住民、障害者といったいろいろな言葉が出ているが、この中に名古屋市として外国籍の人をどれだけ想定しているのか。グローバル化していること自体は押さえてはいるが、それは経済的な側面で捉えていて、ここで生活している人間のグローバル化というところまで必ずしも踏み込んではいない。
○教育現場の中にも、地域の中にも日本語が不十分であったり、地域の情報をほとんど知らないまま、あるいは福祉的なシステムの情報をよく知らないまま生活している人が多いので、そういう人たちも名古屋市民、名古屋の地域住民と考えて施策をするのかどうかである。
○「虐待やいじめ、不登校から子どもを守ります」について、守りたいが具体的にどうすれば良いのかは、かなり難しい問題である。先生に対してカウンセリング手法を研修するといったことしないとなかなか上手くいかないのではないか。スクールカウンセラーをさらに充実させていくような具体的なことをしていくと良いのではないか。
○「人権が尊重され差別や偏見がない社会をつくります」について、多分マイノリティーに対する差別や偏見がない社会であると思うが、そのマイノリティーにセクシャルマイノリティーに対しても施策を入れていただきたい。
○「男女平等参画を総合的にすすめます」については、名古屋市職員の男性の育休の義務化といったところまで踏み込んで検討すると良い。
○重点戦略に「子育て世代に選ばれるまちをつくるとともに、地域の活力を高めます」とあるが、少子・高齢化で高齢者対策も一生懸命やっており評価できる一方で、子供が生まれる社会というものが政策の中でバランスが弱いのではないか。少子・高齢化というものは別々の相対する施策ではなくて、同時に解決するべき問題である。

【防災について】

○防災の面で生き抜いて、地域が早く再建していくかということは自立していることである。高齢者、障害者の人たちの中にも、自立して生活していきたいという気持ちもあって、人口が減っていくことがきっかけになる人もいる。多様な市民、外から来る人たちにきちんと落ちていくような仕組みや仕掛けを打っていただきたい。
○東日本大震災からの風化も激しいし、南海トラフ巨大地震の報道も少なくなっているが、本当に来た時にこの日本がどうなるかというような規模の災害になることが懸念されている。もう分かっている災害なので、そういう意味では、その時のために、東日本大震災を経験した私たちが、もう少し踏み込んだ計画をしていくことが大事ではないか。
○対策を進めていくうえで、ハード面とソフト面の両輪が必要であるが、いくら耐震補強をしようと予算が組まれても、耐震補強をしなければいけないと思わせるようなソフト面の対策が必要である。ハード面とソフト面のバランスの良い対策を具体的な施策の中で進めていくべきである。
○「災害時の火災や救助・救急要請に対応するための消防力の向上など、災害から市民

を守る体制が必要です。」とあるが、それができなかったのが過去の災害である。普通の災害や火事ならば対応できる体制は十分あるが、大規模災害時にそういう力が発揮できないからこそ、市民が協力し合ってやらなければならない。

○大規模災害への備えについて、巨大地震とあるが、中間案を見ると、普通の高潮ぐらいにしか見えない。3.11を経験しているが、それを超えるような災害が名古屋を襲ったらどうするのだという話を考えないといけない。そうしないとやはり世界の一級の人は来ないのではないか、投資をしてくれないのではないか。

○セントレアと関空が同時被災して、あるいは一方が完全に機能不全に陥って、もう一方で全部受け止めなければいけないとどうするかということがあるし、政府、東京が大規模に被災した時に、政府機能をどうするかという問題もある。

【都市間競争・都市魅力について】

○リニアの開業がだんだん視野に入ってきてかつ、世界的に都市圏間の競争が厳しくなる中で、名古屋市は名古屋市単独ではなくて、広く名古屋都市圏域全体として勝負していこうというところに踏み出している点は大変評価できる。名古屋市を中心とした一定の市町村のまとまりでこのエリアを強くしていこうというという点は良い。

○名古屋にとって大きな課題だと思われる点は、外からの人材を呼び込む力が乏しい点である。特に首都圏と比較した場合、大変弱い。名古屋という都市が首都圏や関西との比較において、ここに住んでもよい、特に若い人がここで学んで、ここで生活していってもよいと思ってもらえるようなまちづくりを考えていかなければならない。

○世界の中で名古屋にこういう面白い、こういうユニークな、こういうナンバーワンがあるということが欠けているところがある。総合計画なのでいろいろな要素があっても良いので、そういった視点も加えると良いのではないか。

○外から来た人が、ここに一時的にでも留まることができ、それがここに住みたいと思える豊かさを享受してもらえるような施策が、この施策体系に盛り込まれても良いのではないか。

○国籍やそれ以外も含めたマイノリティーの人たちにとって、どれだけこの名古屋が住みやすくなるかどうかということが、名古屋にとって大事ではないか。名古屋だけの人材だけでは、この先伸び代があまりないということは確実だろうから、人の開放性、人の寛容性というところにも目を向けていただきたい。

○中間案の23ページには、強みを活かしていくとあるが、どこにも名古屋市の強みが特出しで書いていない。中に住んでいる人はどうしても自分たちのところの強みに気付かないことがあるので、気付いてもらって自信を持ってもらえるような書きぶりにすると良い。

○名古屋市には外国人市民がたくさんいるので、彼らの目で見て、どういうところをPRすれば外から名古屋市に人が来てもらえるのか、どういうところを直せば名古屋市はもっと呼び込む力が強くなるのかということを聞いて、それを活かす形で取り組むと、今まで見えなかったことが見えてくるのではないか。

○市民の皆さんは名古屋に誇りを持って暮らしている。東京に負けているとか世界に負けているとかと思って暮らしていないところが名古屋の人たちの良いところではない

か。

○国際的な都市間競争を勝ち抜くためには英語であり、英語圏の人たちが名古屋で生活をしてストレスを感じない、そういうまちを作ることである。日本人だから日本語を大切にしなくてはいけないことは当然だが、それとは別次元の話である。

○典型的な広域連携は、今盛んになっている昇龍道である。伊勢から北陸までの広域連携で、これで広域でやろうという雰囲気が出てきている。その時にやはり名古屋が大事である。やはり面白く、京都へ行かなくても良いようなまちを作らなければいけない。

○中間案の29ページの都市像（4）には、港のことが書いてなく、施策体系に「港・臨海域の魅力向上をはかります」とある。名古屋は名古屋港で支えられてきているところが大きいのであるから、物流機能としてどう捉えるのかを示すべきではないか。空港のことも載っていないのではないか。

○名古屋市には産業振興政策はこれまでなかったし、必要なかった。これまでは新たな産業を育成しようという取り組みをしなくても、民間企業を中心に頑張って成長することができた。市として何か新しい産業を育てたいのなら、それを掲げてやれば良いが、これまでのやり方を前提に考えるのは止めた方が良いのではないか。

○この地域の中小企業にとって一番困るのはどこへ相談に行ったら良いのかが、まず目に見えにくい。できれば名古屋駅前の1箇所に、中小企業を支援する機関が集まって、そこへまず来れば良いというような体制を目に見える形で作ることが大事である。

【多様な主体との連携について】

○NPOという存在を今後住民の代表としてか、一定の専門性を持った専門集団として捉えるか。NPOも多様化してきているのがここ10年の流れで、小さな地域に密着して活躍するところもあれば、専門性を持ってより広域で活動するNPOも出てきているので、NPOの持っている住民性と専門性を上手く市の中でも使っていけると良い。

○「多様な主体と行政の連携」とあるが、連携なのか協働なのか。連携は互いの領域がとはっきりしている中で、どう相乗効果を出すかだし、協働は互いの領域を超えて、課題や未来に向かって土台作りから一緒にやっていくという違いがある。連携はすでに様々な形で進んできているが、協働がまだまだなので検討していただきたい。

○多様な主体が活躍できる、支えられている側が支え手になるとあるが、何もなくて全ての市民が支え手になれるか。何かハブになるようなコミュニティーやどこかへの参画が重要である。

○地域の組織がしっかりしていて、学区や地域福祉推進協議会のようなものがきちんと機能している。だんだん弱まってはきているが、それでもきちんと地域のことに責任を持ってやろうという人たちが、地域にたくさんいる。その人たちを信頼して、もっと市民の力を活かすように考えても良いのではないか。

○社会福祉協議会の活動の中で住民との懇談会を続けてきているが、区の行政や市の施策に反映できてない。住民がボトムアップでやっているものを行政が上手く受け取っていないので、その仕組みをもう少し区の役割などを考えると、もっと名古屋市民の力が出てくるのではないか。

○多様な主体の参画については、行政が束ねて安く使おうということにではなく、勝手に活動できるような場を上手く提供していくことが大事なのではないか。

【情報の活用について】

○情報インフラ、ICTの活用が抜けているのではないか。有事の際に住民の情報や、市政運営に対して根幹となる重要な情報をどう退避させるか、あるいは復旧させるか、守るか、管理するか、それから活用していくかというところの視点が触れられていない。

○情報インフラとICTの活用に関して、有事の時だけではなく、高齢者の見守りや教育、防犯にも使えるし、普段の中でもいろいろな活用ができてくるので、重点課題や重点戦略の中で見ることはなくても、具体施策の中に盛り込む形にしたら良いのではないか。

○市として抱えている情報をどうしていくか、何かあった時に個人がどう大事な情報をとっていくか。皆がスマホからいろいろな情報が取れるのだが、逆に情報に頼ってしまい、それが不安になるということがあるので、何かの時に間違ってはいけない。市の中で抱えている大きな情報の管理もそうだが、個人にどう発信していくかというインフラの整備もものすごく大事ではないか。

【都市基盤・都市構造について】

○中間案の36ページに「駅そば生活圏」とあり、これから高齢化していくと、高台で車がないと生活できないところに高齢者が暮らすとなると辛いので、公共交通の便利な駅そばに来るのは結構なことだし、そういった形でコンパクトシティ化してくることになるだろう。

○駅そば傾向が強まっていくと影響を受けるのはさらに郊外の市町になる。そういう意味でも、広域的な連携、対策が不可欠になってくるだろう。関西と違ってこの名古屋都市圏の場合は一極集中なので、積極的にリーダーシップをとって、周辺市町村にも不安を与えないような形での連携をしていただきたい。

○これから築40年、50年のものが増えてきて、更新しないといけないが、全部を更新することは当然できないし、廃止縮小を含めていかないといけない。廃止縮小となると、必ず各論反対が出てくるので、市民がきちんと選択して、議論を尽くして、大方これで納得せざるを得ないという形で、アセットマネジメントをすすめていくと良い。

○アセットマネジメントについて、結果として、名古屋の魅力が損なわれるというようなことがないようにしなくてはいけない。それは決して名古屋市がお金をかけて魅力あるものを作れという意味ではなく、月並みだが民間の活力を活かすということになる。そういったことが、31ページの中に書いてあっても良いのではないか。

【市民参画について】

○この計画を伝えたい人に伝わるような仕組みが合わせてセットでないといけない。子供たちが住んでいるところに愛着を持ってくれるように、大人たちが子どもたちを中心に地域を盛り上げていこうとする機運が生まれてくる仕組みが重要である。

○COLLAGREEは子育て世代、30代、40代ぐらいの人に非常に参加しやすい形だと思うので、これを広く宣伝して、たくさんの人に参加していただけると良い。
○どう広報していくかについては、やはり若い世代に向けてというところをターゲットにしていくことが狙い目である。昨今、大学では地域連携ということもあるので、できるだけ若い人たちに情報がさらに伝わるようにしていくようなことを検討すると良いのではないか。